

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

17. 3. 2004

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日            2 0 0 3 年   3 月 1 7 日  
Date of Application:

REC'D 29 APR 2004

出 願 番 号            特 願 2 0 0 3 - 0 7 2 7 1 4  
Application Number:  
[ST. 10/C]:            [ J P 2 0 0 3 - 0 7 2 7 1 4 ]

WIPO

PCT

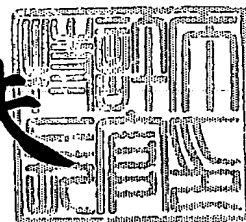
出 願 人            麒麟麦酒株式会社  
Applicant(s):        学校法人日本大学

PRIORITY DOCUMENT  
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN  
COMPLIANCE WITH  
RULE 17.1(a) OR (b)

2 0 0 4 年   4 月 1 4 日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

今 井 康 夫



【書類名】 特許願

【整理番号】 P03-0137

【提出日】 平成15年 3月17日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 A61P 1/02  
A61K 39/395

【発明の名称】 歯周病治療剤

【請求項の数】 51

【発明者】

【住所又は居所】 群馬県高崎市宮原町 3 麒麟麦酒株式会社 医薬探索研  
究所内

【氏名】 田原 知幸

【発明者】

【住所又は居所】 東京都千代田区九段南四丁目 8 番 2 4 号 学校法人 日  
本大学内

【氏名】 安孫子 宜光

【発明者】

【住所又は居所】 新潟県新潟市学校町通 2 番町 5 2 7 4 番地 新潟大学内

【氏名】 吉江 弘正

【特許出願人】

【識別番号】 000253503

【氏名又は名称】 麒麟麦酒株式会社

【特許出願人】

【識別番号】 899000057

【氏名又は名称】 学校法人 日本大学

【代理人】

【識別番号】 100091096

【弁理士】

【氏名又は名称】 平木 祐輔

## 【選任した代理人】

【識別番号】 100118773

【弁理士】

【氏名又は名称】 藤田 節

## 【選任した代理人】

【識別番号】 100111741

【弁理士】

【氏名又は名称】 田中 夏夫

## 【手数料の表示】

【予納台帳番号】 015244

【納付金額】 21,000円

## 【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9809317

【包括委任状番号】 0200399

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 歯周病治療剤

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 ヘミンと40-kDa OMPとの結合阻害活性を有する、40-kDa OMPと結合する抗体またはその機能的断片。

【請求項 2】 (1) *P.gingivalis*共凝集阻害活性、および(2) ヒト好中球貪食賦活活性を有する、40-kDa OMPと結合する抗体またはその機能的断片。

【請求項 3】 (1) *P.gingivalis*共凝集阻害活性、および(2) ヘミンと40-kDa OMPとの結合阻害活性を有する、40-kDa OMPと結合する抗体またはその機能的断片。

【請求項 4】 (1) ヒト好中球貪食賦活活性、および(2) ヘミンと40-kDa OMPとの結合阻害活性を有する、40-kDa OMPと結合する抗体またはその機能的断片。

【請求項 5】 (1) *P.gingivalis*共凝集阻害活性、および(2) ヒト好中球貪食賦活活性、および(3) ヘミンと40-kDa OMPとの結合阻害活性を有する、40-kDa OMPと結合する抗体またはその機能的断片。

【請求項 6】 抗体がヒト抗体である請求項 1～5 のいずれか 1 項に記載の抗体またはその機能的断片。

【請求項 7】 マウス-マウスハイブリドーマにより産生される請求項 1～6 のいずれか 1 項に記載の抗体またはその機能的断片。

【請求項 8】 治療薬剤と共有的または非共有的に結合した、請求項 1～7 のいずれか 1 項に記載の抗体またはその機能的断片。

【請求項 9】 治療薬剤が抗生物質または抗菌剤から選択される、請求項 8 記載の抗体またはその機能的断片。

【請求項 10】 抗生物質または抗菌剤がテトラサイクリンまたはミノサイクリンから選択される請求項 9 記載の抗体またはその機能的断片。

【請求項 11】 抗体のクラスがIgGである請求項 1～10 のいずれか 1 項に記載の抗体またはその機能的断片。

【請求項 12】 IgGがIgG1である請求項 11 記載の抗体またはその機能的

断片。

【請求項 13】 抗体のクラスがIgAである請求項 1～10のいずれか1項に記載の抗体またはその機能的断片。

【請求項 14】 重鎖定常領域のアミノ酸配列を改変した、請求項 1～13のいずれか1項に記載の抗体またはその機能的断片。

【請求項 15】 ハイブリドーマh13-17（受託番号FERM BP-8325）が産生する、40-kDa OMPと結合する抗体またはその機能的断片。

【請求項 16】 ハイブリドーマh13-17（受託番号FERM BP-8325）が産生する抗体の可変領域を有する、40-kDa OMPと結合する抗体またはその機能的断片。

【請求項 17】 治療薬剤と共有的または非共有的に結合した、請求項 15または16に記載の抗体またはその機能的断片。

【請求項 18】 治療薬剤が抗生物質または抗菌剤から選択される、請求項 17記載の抗体またはその機能的断片。

【請求項 19】 抗生物質または抗菌剤がテトラサイクリンまたはミノサイクリンから選択される請求項 18記載の抗体またはその機能的断片。

【請求項 20】 抗体のクラスがIgGである請求項 15～19のいずれか1項に記載の抗体またはその機能的断片。

【請求項 21】 IgGがIgG1である請求項 20記載の抗体又はその機能的断片。

【請求項 22】 抗体のクラスがIgAである請求項 15～19のいずれか1項に記載の抗体またはその機能的断片。

【請求項 23】 重鎖定常領域のアミノ酸配列を改変した、請求項 15～22のいずれか1項に記載の抗体またはその機能的断片。

【請求項 24】 ハイブリドーマh13-17（受託番号FERM BP-8325）。

【請求項 25】 ハイブリドーマ5-89-2（受託番号FERM BP-8323）が産生する、40-kDa OMPと結合する抗体またはその機能的断片。

【請求項 26】 ハイブリドーマ5-89-2（受託番号FERM BP-8323）が産生する抗体の可変領域を有する、40-kDa OMPと結合する抗体またはその機能的断片。

【請求項 27】 治療薬剤と共有的または非共有的に結合した、請求項 25

または 26 記載の抗体またはその機能的断片。

【請求項 28】 治療薬剤が抗生物質または抗菌剤から選択される、請求項 27 記載の抗体またはその機能的断片。

【請求項 29】 抗生物質または抗菌剤がテトラサイクリンまたはミノサイクリンから選択される請求項 28 記載の抗体またはその機能的断片。

【請求項 30】 抗体のクラスが IgG である請求項 25～29 のいずれか 1 項に記載の抗体またはその機能的断片。

【請求項 31】 IgG が IgG1 である請求項 30 記載の抗体又はその機能的断片。

【請求項 32】 抗体のクラスが IgA である請求項 25～29 のいずれか 1 項に記載の抗体またはその機能的断片。

【請求項 33】 重鎖定常領域のアミノ酸配列を改変した、請求項 25～32 のいずれか 1 項に記載の抗体またはその機能的断片。

【請求項 34】 ハイブリドーマ 5-89-2 (受託番号 FERM BP-8323)。

【請求項 35】 ハイブリドーマ a44-1 (受託番号 FERM BP-8324) が産生する、40-kDa OMP と結合する抗体またはその機能的断片。

【請求項 36】 ハイブリドーマ a44-1 (受託番号 FERM BP-8324) が産生する抗体の可変領域を有する、40-kDa OMP と結合する抗体またはその機能的断片。

【請求項 37】 治療薬剤と共有的または非共有的に結合した、請求項 35 または 36 記載の抗体またはその機能的断片。

【請求項 38】 治療薬剤が抗生物質または抗菌剤から選択される、請求項 37 記載の抗体またはその機能的断片。

【請求項 39】 抗生物質または抗菌剤がテトラサイクリンまたはミノサイクリンから選択される請求項 38 記載の抗体またはその機能的断片。

【請求項 40】 抗体のクラスが IgG である請求項 35～39 のいずれか 1 項に記載の抗体またはその機能的断片。

【請求項 41】 IgG が IgG1 である請求項 40 記載の抗体又はその機能的断片。

【請求項 42】 抗体のクラスが IgA である請求項 35～39 のいずれか 1

項に記載の抗体またはその機能的断片。

【請求項 4 3】 重鎖定常領域のアミノ酸配列を改変した、請求項 3 5～4 2 のいずれか 1 項に記載の抗体またはその機能的断片。

【請求項 4 4】 ハイブリドーマ a44-1 (受託番号 FERM BP-8324)。

【請求項 4 5】 ハイブリドーマ h13-17 (受託番号 FERM BP-8325)、ハイブリドーマ 5-89-2 (受託番号 FERM BP-8323) およびハイブリドーマ a44-1 (受託番号 FERM BP-8324) からなる群から選択されるハイブリドーマの保有する核酸であって、前記ハイブリドーマが産生する抗体の可変領域を含む抗体をコードする核酸または該抗体の機能的断片をコードする核酸。

【請求項 4 6】 請求項 4 5 に記載の核酸によりコードされる、抗体またはその機能的断片である蛋白質。

【請求項 4 7】 請求項 4 5 に記載の核酸を有する発現ベクター。

【請求項 4 8】 請求項 4 7 に記載の発現ベクターを有する宿主。

【請求項 4 9】 大腸菌、酵母細胞、昆虫細胞、哺乳類細胞および植物細胞並びに哺乳動物からなる群から選ばれる請求項 4 8 記載の宿主。

【請求項 5 0】 ハイブリドーマ h13-17 (受託番号 FERM BP-8325)、ハイブリドーマ 5-89-2 (受託番号 FERM BP-8323) およびハイブリドーマ a44-1 (受託番号 FERM BP-8324) からなる群から選択されるハイブリドーマから 40-kDa OMP と結合する抗体をコードする遺伝子を単離し、該遺伝子を有する発現ベクターを構築し、該発現ベクターを宿主に導入して該抗体を発現せしめ、得られる宿主、宿主の培養上清または宿主の分泌物から該抗体を採取することを含む、40-kDa OMP と結合する抗体の製造方法。

【請求項 5 1】 請求項 1～2 3、2 5～3 3、3 5～4 3 および 4 6 のいずれか 1 項に記載の抗体またはその機能的断片を有効成分として含有する、歯周病予防、診断または治療剤。

#### 【発明の詳細な説明】

【0001】

#### 【発明の属する技術分野】

本発明は、抗歯周病剤に関する。具体的には、本発明は歯周病病原菌の凝集阻

害活性と白血球による殺菌促進活性とを併せ持ち、好ましくは、40-kDa OMPとヘミンの結合を阻害する40-kDa OMPに対するモノクローナル抗体であって、さらに、マウス等の非ヒト動物の抗体と比較して副作用を生じる可能性が低いヒトモノクローナル抗体および該モノクローナル抗体を含む抗菌周病剤に関する。

#### 【0002】

##### 【従来の技術】

歯周病は国民の約80%以上が罹患する疾患であり、口腔内細菌の感染、歯周病病原性細菌の増加、細菌の組織内侵入及び感染に対する宿主免疫応答等が主たる原因と考えられている。歯周病は最終的には歯の喪失に至りQuality of lifeを損なう極めて重要な疾患である。さらに、近年、歯周病は歯牙喪失だけでなく、循環系疾患、低体重児出産・早産、糖尿病、心内膜炎、肺炎と因果関係があることが分かってきている (Abiko Y., Crit. Rev. Oral. Biol. Med., 2000 Vol 11:140)。

#### 【0003】

歯周病の治療法は感染源の排除が治療上重要であることから、ブラッシングとスクレーピングといった極めて原始的な方法や歯周外科等がいまだに主流である。しかし、これらの機械的除去療法のみでは歯周病病原菌を完全に駆逐するのは不可能であり、菌血症や病巣感染をも招くことから、全身疾患を有する患者に適用できないことがある。また、テトラサイクリン、ミノサイクリン等の抗生物質や抗菌剤の投与も歯周治療として有効とされてきたが、最近では複数の耐性菌、耐性関連遺伝子、副作用等の問題が指摘されており、薬物療法の限界も示唆されている。したがって、歯周病に対し未だ有効な治療法が確立されていないのが現状であり、人体への安全性が高く歯周病病原菌を完全に駆逐しうる新しい治療法の開発が期待されている。

#### 【0004】

口腔細菌の中で *Porphyromonas gingivalis* (*P. gingivalis*) は成人型歯周病患者の歯周ポケットから高頻度で分離され、歯周病の病原菌として最も有力視されている。この菌は血液平板上で黒色コロニーを形成するグラム陰性の桿菌であり、本菌体表層成分や菌体外産物が歯周組織の破壊に関わると考えられている。こ



のため、歯周病を効果的に予防また治療するためには、*P. gingivalis*の定着を抑え、歯周ポケット内から本菌体を排除することが重要である。

#### 【0005】

*P. gingivalis*駆除の方法として抗体療法が考えられる。同療法は、歯周病病原菌の病原因子に対する特異抗体を作製し、歯周ポケットに投与することで、1) 歯周ポケットへの病原菌定着の抑制、2) 歯周ポケット白血球による殺菌促進、等を期待するものである。1) について抗原は未同定であるが*P. gingivalis*に対する抗体を局所投与することで、9カ月間同細菌の歯周ポケット内再定着を抑制できたと報告されている (Booth, V. et al., Infect Immun., 1996 Vol 64:422)。このように特異抗体により歯周病病原菌定着を抑制することで、歯周病はある程度克服できる可能性がある。さらに、重度な歯周感染症で観血的処置が不可能な場合には、歯周ポケット内の白血球による殺菌促進活性 (貪食賦活活性) を積極的に期待するような抗体療法も必要であると考えられる。

#### 【0006】

近年、*P. gingivalis*に発現している抗原の一つとして、40-kDa Outer membrane protein (OMP)が報告されている (Abiko, Y. et.al., Arch. Oral. Biol. 1990 Vol 35:689, Kawamoto, Y. et.al., Int. J. Biochem., 1991 Vol 23:1053)。40-kDa OMPは、多くの*P. gingivalis*株間で保存され発現している (Hiratsuka, K. et.al, 1996. FEMS. Microbiol. Lett. 138:167-172)。40-kDa OMP抗原に対するモノクローナル抗体は*P. gingivalis*と*Actinomyces viscosus*の共凝集を阻害することから、この抗原は*P. gingivalis*の定着に重要な因子である (Abiko, Y. et.al., Infect. Immun., 1997 Vol 65:3966, Hiratsuka, K. et.al., Arch. Oral. Biol., 1992 Vol 37:717, Saito S. et.al., Gen. Pharmacol., 1997 Vol 28:675)。さらに、抗40-kDa OMPポリクローナル抗体が前骨髄球細胞株HL60の貪食能を賦活化する活性があることも報告されている (Saito, S.et.al, J. Periodontol., 1999 Vol 70:610)。したがって、*P. gingivalis*の共凝集阻害活性と白血球による*P. gingivalis*貪食賦活活性を有し、かつ、患者への応用を考えた場合に安全性や効果の持続性の点で優れているヒトモノクローナル抗体の提供は、新規歯周病治療法の開発に大きく貢献すると考えられる。しかし、そのよ

うな抗体は未だ全く報告されていない。一般に *P. gingivalis* の共凝集阻害活性を持つ全ての抗体が、白血球による殺菌促進活性を持つかは必ずしも明らかではない。さらに、*P. gingivalis* の生長や増殖さらには本菌の病原性発揮にヘミンの取り込みが必須であることが知られている。40kDa-OMPタンパクにはヘミン結合部位として知られている heme regulatory motif が存在し、実際、40kDa-OMP はヘミンが結合するヘミン結合タンパクの一種であることが報告されている (Shibata, Y. et.al., B.B.R.C., 2003 Vol 300:351)。40kDa-OMP とヘミンの結合を阻害する抗体は、*P. gingivalis* の生長や増殖を阻害し本菌に強い傷害を与える可能性が高いと考えられる。

**【0007】****【非特許文献1】**

Abiko Y., Crit. Rev. Oral. Biol. Med., 2000 Vol 11:140

**【非特許文献2】**

Booth, V. et al., Infect Immun., 1996 Vol 64:422

**【非特許文献3】**

Abiko, Y. et.al., Arch. Oral. Biol. 1990 Vol 35:689

**【非特許文献4】**

Kawamoto, Y. et.al., Int. J. Biochem., 1991 Vol 23:1053

**【非特許文献5】**

Hiratsuka, K. et.al, 1996. FEMS. Microbiol. Lett. 138:167-172

**【非特許文献6】**

Abiko, Y. et.al., Infect. Immun., 1997 Vol 65:3966

**【非特許文献7】**

Hiratsuka, K. et.al., Arch. Oral. Biol., 1992 Vol 37:717

**【非特許文献8】**

Saito S. et.al., Gen. Pharmacol., 1997 Vol 28:675

**【非特許文献9】**

Saito, S. et.al, J. Periodontol., 1999 Vol 70:610

**【非特許文献10】**

Shibata, Y. et.al., B.B.R.C., 2003 Vol 300:351

【0008】

【発明が解決しようとする課題】

本発明は、歯周病病原菌として知られる*P. gingivalis*を歯周ポケット内から排除しながらも人体に安全と考えられる抗歯周病剤を提供することを目的とする。とくに本発明は、上記歯周病病原菌の凝集阻害活性と白血球による殺菌促進活性とを併せ持ち、好ましくは、ヘミンの結合を阻害する40-kDa OMPに対するモノクローナル抗体であって、さらに、マウス等の非ヒト動物の抗体と比較して副作用を生じる可能性が低いヒトモノクローナル抗体を提供することを目的とする。

【0009】

【課題を解決するための手段】

本発明は、上記従来課題を解決することを目的とするものである。すなわち、本発明者は、歯周病病原菌として知られる*P. gingivalis*を歯周ポケット内から排除しながらも人体に安全と考えられる抗歯周病剤の開発を目的とし鋭意検討を行い、歯周病病原菌の凝集阻害活性と白血球による殺菌促進活性とを併せ持ち、好ましくは、ヘミンの結合を阻害する40-kDa OMPに対するモノクローナル抗体であって、さらにマウス等の非ヒト動物の抗体と比較して副作用を生じる可能性が低いヒトモノクローナル抗体が抗歯周病剤として優れた効果を有することを見出し、本発明を完成させるに至った。

【0010】

すなわち、本発明は以下の通りである。

- [1] ヘミンと40-kDa OMPとの結合阻害活性を有する、40-kDa OMPと結合する抗体またはその機能的断片、
- [2] (1) *P. gingivalis*共凝集阻害活性、および(2) ヒト好中球貪食賦活活性を有する、40-kDa OMPと結合する抗体またはその機能的断片。
- [3] (1) *P. gingivalis*共凝集阻害活性、および(2) ヘミンと40-kDa OMPとの結合阻害活性を有する、40-kDa OMPと結合する抗体またはその機能的断片、
- [4] (1) ヒト好中球貪食賦活活性、および(2) ヘミンと40-kDa OMPとの結合阻害活性を有する、40-kDa OMPと結合する抗体またはその機能的断片、

- [5] (1) *P. gingivalis* 共凝集阻害活性、および (2) ヒト好中球貪食賦活性、および (3) ヘミンと 40-kDa OMP との結合阻害活性を有する、40-kDa OMP と結合する抗体またはその機能的断片、
- [6] 抗体がヒト抗体である [1] ~ [5] のいずれかの抗体またはその機能的断片、
- [7] マウス-マウスハイブリドーマにより産生される [1] ~ [6] のいずれかの抗体またはその機能的断片、
- [8] 治療薬剤と共有的または非共有的に結合した、[1] ~ [7] のいずれかの抗体またはその機能的断片、
- [9] 治療薬剤が抗生物質または抗菌剤から選択される、[8] の抗体またはその機能的断片、
- [10] 抗生物質または抗菌剤がテトラサイクリンまたはミノサイクリンから選択される [9] の抗体またはその機能的断片、
- [11] 抗体のクラスが IgG である [1] ~ [10] のいずれかの抗体またはその機能的断片、
- [12] IgG が IgG1 である [11] の抗体またはその機能的断片、
- [13] 抗体のクラスが IgA である [1] ~ [10] のいずれかの抗体またはその機能的断片、
- [14] 重鎖定常領域のアミノ酸配列を改変した、[1] ~ [13] のいずれかの抗体またはその機能的断片、
- [15] ハイブリドーマ h13-17 (受託番号 FERM BP-8325) が産生する、40-kDa OMP と結合する抗体またはその機能的断片、
- [16] ハイブリドーマ h13-17 (受託番号 FERM BP-8325) が産生する抗体の可変領域を有する、40-kDa OMP と結合する抗体またはその機能的断片、
- [17] 治療薬剤と共有的または非共有的に結合した、[15] または [16] の抗体またはその機能的断片、
- [18] 治療薬剤が抗生物質または抗菌剤から選択される、[17] の抗体またはその機能的断片、
- [19] 抗生物質または抗菌剤がテトラサイクリンまたはミノサイクリンから選

択される[18]の抗体またはその機能的断片、

[20] 抗体のクラスがIgGである[15]~[19]のいずれかの抗体またはその機能的断片、

[21] IgGがIgG1である[20]の抗体又はその機能的断片、

[22] 抗体のクラスがIgAである[15]~[19]のいずれかの抗体またはその機能的断片、

[23] 重鎖定常領域のアミノ酸配列を改変した、[15]~[22]のいずれかの抗体またはその機能的断片、

[24] ハイブリドーマh13-17（受託番号FERM BP-8325）、

[25] ハイブリドーマ5-89-2（受託番号FERM BP-8323）が産生する、40-kDa OMPと結合する抗体またはその機能的断片、

[26] ハイブリドーマ5-89-2（受託番号FERM BP-8323）が産生する抗体の可変領域を有する、40-kDa OMPと結合する抗体またはその機能的断片、

[27] 治療薬剤と共有的または非共有的に結合した、[25]または[26]の抗体またはその機能的断片、

[28] 治療薬剤が抗生物質または抗菌剤から選択される、[27]の抗体またはその機能的断片、

[29] 抗生物質または抗菌剤がテトラサイクリンまたはミノサイクリンから選択される[28]の抗体またはその機能的断片、

[30] 抗体のクラスがIgGである[25]~[29]のいずれかの抗体またはその機能的断片、

[31] IgGがIgG1である[30]の抗体又はその機能的断片、

[32] 抗体のクラスがIgAである[25]~[29]のいずれかの抗体またはその機能的断片、

[33] 重鎖定常領域のアミノ酸配列を改変した、[25]~[32]のいずれかの抗体またはその機能的断片、

[34] ハイブリドーマ5-89-2（受託番号FERM BP-8323）、

[35] ハイブリドーマa44-1（受託番号FERM BP-8324）が産生する、40-kDa OMPと結合する抗体またはその機能的断片、

- [36] ハイブリドーマa44-1 (受託番号FERM BP-8324) が産生する抗体の可変領域を有する、40-kDa OMPと結合する抗体またはその機能的断片、
- [37] 治療薬剤と共有的または非共有的に結合した、[35]または[36]の抗体またはその機能的断片、
- [38] 治療薬剤が抗生物質または抗菌剤から選択される、[37]の抗体またはその機能的断片、
- [39] 抗生物質または抗菌剤がテトラサイクリンまたはミノサイクリンから選択される[38]の抗体またはその機能的断片、
- [40] 抗体のクラスがIgGである[35]～[39]のいずれかの抗体またはその機能的断片、
- [41] IgGがIgG1である[40]の抗体又はその機能的断片、
- [42] 抗体のクラスがIgAである[35]～[39]のいずれかの抗体またはその機能的断片、
- [43] 重鎖定常領域のアミノ酸配列を改変した、[35]～[42]のいずれかの抗体またはその機能的断片、
- [44] ハイブリドーマa44-1 (受託番号FERM BP-8324) 、
- [45] ハイブリドーマh13-17 (受託番号FERM BP-8325) 、ハイブリドーマ5-89-2 (受託番号FERM BP-8323) およびハイブリドーマa44-1 (受託番号FERM BP-8324) からなる群から選択されるハイブリドーマの保有する核酸であって、前記ハイブリドーマが産生する抗体の可変領域を含む抗体をコードする核酸または該抗体の機能的断片をコードする核酸、
- [46] [45]の核酸によりコードされる、抗体またはその機能的断片である蛋白質、
- [47] [45]の核酸を有する発現ベクター、
- [48] [47]の発現ベクターを有する宿主、
- [49] 大腸菌、酵母細胞、昆虫細胞、哺乳類細胞および植物細胞並びに哺乳動物からなる群から選ばれる[48]の宿主、
- [50] ハイブリドーマh13-17 (受託番号FERM BP-8325) 、ハイブリドーマ5-89-2 (受託番号FERM BP-8323) およびハイブリドーマa44-1 (受託番号FERM BP-832

4) からなる群から選択されるハイブリドーマから40-kDa OMPと結合する抗体をコードする遺伝子を単離し、該遺伝子を有する発現ベクターを構築し、該発現ベクターを宿主に導入して該抗体を発現せしめ、得られる宿主、宿主の培養上清または宿主の分泌物から該抗体を採取することを含む、40-kDa OMPと結合する抗体の製造方法、および

[51] [1]~[23]、[25]~[33]、[35]~[43]および[46]のの抗体またはその機能的断片を有効成分として含有する、歯周病予防、診断または治療剤。

以下、本発明を詳細に説明する。

#### 【0011】

##### 【発明の実施の形態】

40-kDa OMPは、公知の塩基配列（日本DNAデータベース：アクセッション番号AB059658）又はアミノ酸配列に基づいて、遺伝子組換え技術のほか、化学的合成法、細胞培養方法等のような技術的分野において知られる方法を適宜用いることにより製造することができる。40-kDa OMPの塩基配列を配列番号1に、アミノ酸配列を配列番号2に示す。また40-kDa OMPの部分配列は、後述する技術的分野において知られる方法に従って、遺伝子組換え技術又は化学的合成法により製造することもできるし、また40-kDa OMPをタンパク分解酵素等を用いて適切に切断することにより製造することができる。

#### 【0012】

本発明の抗体またはその機能的断片には、以下のような反応性を有する各種の抗40-kDa OMPモノクローナル抗体またはその機能的断片が包含される。すなわち、① *P.gingivalis*共凝集阻害活性およびヒト好中球貪食賦活活性を有する、40-kDa OMPと結合する抗体もしくはその機能的断片、② *P.gingivalis*共凝集阻害活性、ヒト好中球貪食賦活活性およびヘミンと40-kDa OMPとの結合阻害活性を有する、40-kDa OMPと結合する抗体もしくはその機能的断片、③ ヒト好中球貪食賦活活性およびヘミンと40-kDa OMPとの結合阻害活性を有する、40-kDa OMPと結合する抗体もしくはその機能的断片、④ *P.gingivalis*共凝集阻害活性およびヘミンと40-kDa OMPとの結合阻害活性を有する、40-kDa OMPと結合する抗体もしくは

はその機能的断片、または⑤ ヘミンと40-kDa OMPとの結合阻害活性を有する、40-kDa OMPと結合する抗体もしくはその機能的断片、が包含される。

#### 【0013】

ここでP.gingivalisの共凝集とは、P.gingivalisがActinomyces viscosus やStreptococcus gordonii等の他の微生物と凝集することをいい、この凝集により歯周ポケットに病原菌がプラークとして定着する。従って、本発明の抗体のP.gingivalisの凝集阻害活性とは、P.gingivalisと他の菌との凝集を阻害し得る活性をいう。抗体がこのような凝集阻害活性を有しているか否かは、本明細書の実施例9に記載の方法により決定することができる。実施例9に記載の方法により凝集阻害活性を測定した場合、本発明の抗体のスコアは好ましくは2以下である。また、本発明の抗体の白血球による殺菌促進活性とは、好中球等の白血球のP.gingivalis貪食の賦活化活性をいい、本明細書の実施例10に記載の方法により決定することができる。実施例10に記載の方法で貪食賦活化活性を測定した場合、本発明の抗体の貪食率はコントロール抗体に比べ有意に高い。さらに、本発明の抗体には、P.gingivalisの40kDa-OMPとヘミンとの結合を阻害する活性を有する抗体が包含される。抗体がP.gingivalisの40kDa-OMPとヘミンとの結合を阻害するか否かは、本明細書の実施例14に記載の方法により決定することができる。実施例14に記載の方法によりヘミン結合阻害活性を測定した場合、本発明の抗体の活性はコントロール抗体に比べて有意に高い。本発明の抗体の活性の検定にP.gingivalisを用いるが、P.gingivalisは40-kDa OMPを発現するものであればいずれでもよく、例えば本発明の実施例で用いたP.gingivalis381あるいはP.gingivalisW50 (ATCC番号: 53978) が挙げられる。

#### 【0014】

該抗体またはその機能的断片の例には、後に記載されるような抗40-kDa OMPモノクローナル抗体、あるいは、該抗体を構成する重鎖及び／又は軽鎖の各々のアミノ酸配列において1若しくは数個のアミノ酸が欠失、置換若しくは付加されたアミノ酸配列を有する重鎖及び／又は軽鎖からなるモノクローナル抗体であって、上記①から⑤のいずれかの反応性を有する抗体も包含される。前記のようなアミノ酸の「改変」(欠失、置換、挿入、付加)は、そのアミノ酸配列をコードす



る塩基配列を部分的に改変することにより導入することができる。例えばこの塩基配列の部分的改変は、既知の部位特異的変異導入法 (Site specific mutagenesis) を用いて常法により導入することができる (Proc Natl Acad Sci USA., 1984 81:5662; Sambrook et al., Molecular Cloning A Laboratory Manual (1989) Second edition, Cold Spring Harbor Laboratory Press)。例えば、本発明において重鎖定常領域のアミノ酸配列を改変した抗体は、改変前の抗体に比べて、Fcレセプターに対する親和性向上による、より強力な白血球によるP.gingivalis食食賦活化活性を有する可能性がある。

#### 【0015】

本発明の「抗体」には、いずれのイムノグロブリンクラス及びサブクラスを有する抗体も包含するが、好ましくはヒトイムノグロブリンクラス及びサブクラスを有する抗体であり、好ましいクラス、サブクラスはイムノグロブリンG(IgG)あるいはIgA、特にIgG1及びIgAである。

#### 【0016】

本発明の抗体又はその断片の好ましい別の例は、40-kDa OMPのアミノ酸配列中のエピトープを認識し、かつ、上記①から⑤のいずれかの反応性を有するモノクローナル抗体又はその断片からなる配列である。

#### 【0017】

本発明における抗体の断片とは、前記で定義した抗体の一部分を意味し、具体的にはF(ab')<sub>2</sub>、Fab'、Fab、Fv、disulphide-linked FV、Single-Chain FV(scFV)及びこれらの重合体等が挙げられる (D.J.King., Applications and Engineering of Monoclonal Antibodies., 1998 T.J.International Ltd)。このような抗体断片は慣用法、例えばパパイン、ペプシン等のプロテアーゼによる抗体分子の消化、あるいは公知の遺伝子工学的手法により得ることができる。「機能的断片」とは、完全抗体が特異的に結合する抗原に対して、特異的に結合する抗体の断片を意味する。

#### 【0018】

本発明の抗体は、例えば、下記のような方法によって製造することができる。即ち、例えば、前記で定義したような40-kDa OMP若しくはその一部、又は抗原の

抗原性を高めるための適当な物質（例えば、bovine serum albumin等）との結合物、又は40-kDa OMPを細胞表面に多量に発現している細胞を、必要に応じて免疫賦活剤（Freund's Adjuvant等）とともに、マウス、ウサギ、ヤギ、ウマ等の非ヒト哺乳動物に免疫する。あるいは、40-kDa OMPを組み込んだ発現ベクターを非ヒト哺乳動物に投与することにより免疫感作を行うことができる。モノクローナル抗体は、免疫感作動物から得た抗体産生細胞と自己抗体産生能のない骨髓腫系細胞（ミエローマ細胞）からハイブリドーマを調製し、ハイブリドーマをクローン化し、免疫に用いた抗原に対して特異的親和性を示すモノクローナル抗体を産生するクローンを選択することによって製造される。また好ましくは、再配列されていないヒト抗体遺伝子を保持し、免疫感作により当該免疫原に特異的なヒト抗体を産生する非ヒト動物を免疫に用いることにより、本発明の抗体をヒト抗体として得ることができる。該非ヒト動物としてマウスが挙げられ、ヒト抗体を産生し得るマウスの作成方法は、国際公開W002/43478に記載されている。ここで、ヒト抗体とは、ヒト由来の抗体遺伝子の発現産物である抗体、又はその機能的な断片を意味する。本発明のモノクローナル抗体として、例えば独立行政法人産業技術総合研究所 特許生物寄託センター（茨城県つくば市東1丁目1番地1 中央第6）にブダペスト条約の規定下で2003年3月11日付で国際寄託したハイブリドーマクローンh13-17（受託番号FERM BP-8325）、5-89-2（FERM BP-8323）及びa44-1（FERM BP-8324）が産生するモノクローナル抗体またはその機能的断片が挙げられる。また、これらのモノクローナル抗体のクラスまたはサブクラスを改変させた抗体も含まれる。さらに、これらのハイブリドーマの産生する抗体の重鎖定常領域のアミノ酸配列を改変した抗体またはその機能的断片も含まれる。

#### 【0019】

本発明は上記ハイブリドーマが有する核酸であって、該ハイブリドーマが産生する抗体の可変領域を含む抗体をコードする核酸または該抗体の機能的断片をコードする核酸も包含し、これらの核酸はハイブリドーマから通常の遺伝子工学的手法により得ることができ、またその塩基配列も公知の塩基配列決定法により決定することができる。さらに、本発明は前記のようにして得られる核酸がコードするタンパク質も含み、該タンパク質は上記①から⑤のいずれかの反応性ををも

つ。さらに、本発明は前記核酸を含む発現ベクター、該発現ベクターを含む宿主細胞も包含する。ベクター、及び宿主細胞は限定されず、宿主として例えば大腸菌、酵母細胞、昆虫細胞、哺乳動物細胞、植物細胞のみならず昆虫個体、哺乳動物個体も含まれる。昆虫個体としては例えばカイコが挙げられ、哺乳動物個体としては例えば、マウス、ラット、ウシ、ウマ、ヒツジ、ブタ等が挙げられるが、これらには限定されない。発現ベクターとしては、それぞれの宿主に対応した公知のベクター、市販のベクターを用いることができる。また、発現ベクターを用いての昆虫個体または哺乳動物個体のトランスフェクションも公知の方法により行うことができる。本発明は、さらに前記本発明の核酸を含む発現ベクターを含む宿主細胞または宿主個体において前記核酸を発現させ発現産物を宿主細胞の培養液または宿主個体の体液または乳汁等の分泌物から抗体またはその機能的断片を採取することを含む本発明の抗体またはその機能的断片の製造法をも包含する。

#### 【0020】

本発明の抗体またはその機能的断片は、具体的には下記のようにして製造することができる。モノクローナル抗体を分泌するハイブリドーマの調製は、ケーラー及びミルシュタインらの方法 (Nature., 1975 Vol.256:495-497) 及びそれに準じて行うことができる。即ち、前述の如く免疫感作された動物から取得される脾臓、リンパ節、骨髓又は扁桃等、好ましくはリンパ節又は脾臓に含まれる抗体産生細胞と、好ましくはマウス、ラット、モルモット、ハムスター、ウサギ又はヒト等の哺乳動物に由来する自己抗体産生能のないミエローマ細胞とを、細胞融合させることにより調製される。細胞融合は例えば、ポリエチレングリコール (例えば分子量1500~6000) 等の高濃度ポリマー溶液中、通常約30~40℃、約1~10分間、抗体産生細胞とミエローマ細胞を混合することによって行うことができる。モノクローナル抗体を産生するハイブリドーマクローンのスクリーニングは、ハイブリドーマを、例えばマイクロタイタープレート中で培養し、増殖の見られたウェル中の培養上清の免疫抗原に対する反応性を、例えばELISA等の酵素免疫測定法、ラジオイムノアッセイ、蛍光抗体法などの免疫学的方法を用いて測定することにより行なうことができる。

## 【0021】

ハイブリドーマからのモノクローナル抗体の製造は、ハイブリドーマをインビトロで培養して培養上清から単離することにより行うことができる。また、マウス、ラット、モルモット、ハムスター又はウサギ等の腹水中等でインビボで培養し、腹水から単離することもできる。

## 【0022】

また、ハイブリドーマ等の抗体産生細胞からモノクローナル抗体をコードする遺伝子をクローニングし、適当なベクターに組み込んで、これを宿主（例えばチャイニーズハムスター卵巣（CHO）細胞等の哺乳類細胞株、大腸菌、酵母細胞、昆虫細胞、植物細胞など）に導入し、遺伝子組換え技術を用いて組換え型抗体を調製することができる（P.J.Delves., ANTIBODY PRODUCTION ESSENTIAL TECHNIQUE S., 1997 WILEY、P.Shepherd and C.Dean., Monoclonal Antibodies., 2000 OXFORD UNIVERSITY PRESS, J.W.Goding., Monoclonal Antibodies:principles and practice., 1993 ACADEMIC PRESS）。さらに、トランスジェニック動物作製技術を用いて目的抗体の遺伝子が内在性遺伝子に組み込まれたトランスジェニックなウシ、ヤギ、ヒツジ又はブタを作製し、そのトランスジェニック動物のミルク中からその抗体遺伝子に由来するモノクローナル抗体を大量に取得することも可能である。ハイブリドーマをインビトロで培養する場合には、培養する細胞種の特性、試験研究の目的及び培養方法等の種々条件に合わせて、ハイブリドーマを増殖、維持及び保存させ、培養上清中にモノクローナル抗体を産生させるために用いられるような既知栄養培地又は既知の基本培地から誘導調製されるあらゆる栄養培地を用いて実施することが可能である。

## 【0023】

産生されたモノクローナル抗体は、当該分野において周知の方法、例えばプロテインAあるいはプロテインGカラムによるクロマトグラフィー、イオン交換クロマトグラフィー、疎水クロマトグラフィー、硫酸塩析法、ゲル濾過、アフィニティクロマトグラフィー等を適宜組み合わせることにより精製することができる。

## 【0024】

上記の方法で作製された本発明のモノクローナル抗体又はその断片は、治療用

薬剤とコンジュゲートすることによって、ミサイル療法等の治療目的に使用可能な複合体を形成できる。抗体へ結合させる治療用薬剤の例としては、以下のものに限定されないが、テトラサイクリン、ミノサイクリン等の抗生物質や抗菌剤等が挙げられる。抗体と治療用薬剤の結合は共有又は非共有結合（例えばイオン結合）のいずれでもよい。例えば、抗体分子中の反応性基（例えばアミノ基、カルボキシル基、水酸基等）又は配位性基を利用し、該反応性基と反応しうる官能基（細菌毒素、化学療法剤の場合）又は該配位性基との間で錯体を形成しうるイオン性基（放射性核種の場合）をもつ治療用薬剤と抗体とを接触させることによって、本発明の複合体を得ることができる。あるいは複合体の形成に際してビオチン-アビジン系の利用も可能であろう。また、治療用薬剤がタンパク質又はペプチドである場合は、遺伝子工学的手法により抗体と前記タンパク質又はペプチドとの融合タンパク質として生産することも可能である。

#### 【0025】

また、本発明の抗40-kDa OMP抗体、あるいは上記治療用薬剤と結合した抗40-kDa OMP抗体を含有する歯周病の予防用、診断用または治療用医薬組成物もまた本発明の範囲内に含まれる。該組成物には治療上有効量の治療用薬剤が含まれていべきであり、経口、非経口投与用の種々の形態に製剤化される。ここで、治療上有効量とは、所与の症状や投与計画について治療効果を与える量をいう。本発明の組成物は、抗体に加えて、生理学的に許容され得る製剤上の添加物、例えば希釈剤、保存剤、可溶化剤、乳化剤、アジュバント、酸化防止剤、等張化剤、賦形剤及び担体のうち1種又は複数を含むことができる。また、他の抗体又は抗生物質のような他の薬剤との混合物とすることもできる。適切な担体には、生理的食塩水、リン酸緩衝生理食塩水、リン酸緩衝生理食塩水グルコース液、及び緩衝生理食塩水が含まれるが、これらに限定されるものではない。さらに当該分野において周知であるアミノ酸、糖類、界面活性剤等の安定化剤、表面への吸着防止剤を含んでいてもよい。製剤の形態としては、ペースト、液体、凍結乾燥製剤（この場合上記のような緩衝水溶液を添加することにより再構成して使用可能である。）、徐放製剤、腸溶性製剤、注射剤又は点滴剤などを含む製剤を、治療目的、治療計画に応じて選択可能である。

## 【0026】

投与経路は、経口経路、並びに静脈内、筋肉内、皮下及び腹腔内の注射又は配薬を含む非経腸的経路が考えられるが、動物を用いた試験により最適の経路が選択される。あるいは、患者の患部に直接本発明の組成物を接触させる方法も可能であろう。また直接歯周病患部への適用を考慮すると、口腔内あるいは歯周ポケットへの投与も好ましい。投与量は、動物を用いた試験、臨床試験の実施により適宜決定されるが、一般に患者の状態若しくは重篤度、年齢、体重、性別などが考慮されるべきである。

## 【0027】

また、本発明の抗体またはその機能的断片を歯磨き用ペースト、口腔内洗浄剤に混合させて歯周病患部に適用してもよいし、また食品、飲料等に混合した機能的食品の形態で適用することもできる。

## 【0028】

さらに、本発明の抗体またはその機能的断片を歯周病の診断剤としても使用することができる。例えば、本発明の抗体またはその機能的断片を用いて歯周ポケットに *P. gingivalis* が存在するか否かを検出することができる。該検出は、歯周ポケットのプラークを採取し、該プラーク中の *P. gingivalis* の存在を、EIA、RIA、免疫凝集法との公知の免疫測定法により検出することにより行うことができる。

## 【0029】

## 【実施例】

以下、実施例を以て本発明をさらに詳細に説明するが、本発明がその実施例に記載される態様のみに限定されるものではない。

## 【0030】

(実施例1) 組換え体40-kDa OMP(r40-kDa OMP)の調製

組換え体40-kDa OMP(r40-kDa OMP)は以下のように調製した。完全長r40-kDa OMP DNA (日本DNAデータバンク: アクセション番号AB059658) をベクター組み込んだ組み換えプラスミドpMD125をもつ大腸菌 (*Escherichia coli* K-12) を、テトラサイクリン10 $\mu$ g/mLを含むLB培地 (1% tryptone(ベクトン・ディッキンソン

社製), 0.5% yeast extract(ベクトン・ディッキンソン社製), 0.5% NaCl) で培養した。菌体を遠心機にて回収後、超音波処理により菌体を破壊した。遠心分離機を用いて菌体破壊上清を得た後、Kawamotoら (Int. J. Biochem. 1991 Vol 23:1053) の方法に従い r40-kDa OMP を精製した。調製された r40-kDa OMP は透析膜 (分子量 10000 以下カット, Spectrum Laboratories 社製) を用いて PBS(-) に置換し、SDS/PAGE 電気泳動で分子量 40,000 の単一バンドの精製タンパクを得た。

### 【0031】

#### (実施例 2) ヒト抗体産生マウスの作製

免疫に用いたマウスは、内因性 Ig 重鎖破壊及び  $\kappa$  軽鎖破壊の両者についてホモ接合体の遺伝的背景を有しており、かつヒト Ig 重鎖遺伝子座を含む 14 番染色体断片 (SC20) 及びヒト Ig  $\kappa$  鎖トランスジーン (KCo5) を同時に保持する。このマウスは、ヒト Ig 重鎖遺伝子座を持つ系統 (系統 A) のマウスと、ヒト Ig  $\kappa$  鎖トランスジーンを持つ系統 (系統 B) のマウスとの交配により作製した。系統 A は、内因性 Ig 重鎖及び  $\kappa$  軽鎖破壊の両者についてホモ接合体であり、子孫伝達可能な 14 番染色体断片 (SC20) を保持するマウス系統であり、例えば富塚らの報告 (Tomizuka. et al., Proc. Natl. Acad. Sci. USA., 2000 Vol 97:722) に記載されている。また、系統 B は、内因性 Ig 重鎖及び  $\kappa$  軽鎖破壊の両者についてホモ接合体であり、ヒト Ig  $\kappa$  鎖トランスジーン (KCo5) を保持するマウス系統であり、例えば Fishwild らの報告 (Nat. Biotechnol., 1996 Vol 14:845) に記載されている。系統 A の雄マウスと系統 B の雌マウス、あるいは系統 A の雌マウスと系統 B の雄マウスの交配により得られた、血清中にヒト Ig 重鎖及び  $\kappa$  軽鎖が同時に検出される固体 (Ishida & Lonberg, IBC's 11th Antibody Engineering, Abstract 2000) を以下の免疫実験に用いた。なお、前記ヒト抗体産生マウスは、契約を結ぶことによって、麒麟麦酒株式会社より入手可能である。

### 【0032】

#### (実施例 3) 40-kDa OMP に対するヒトモノクローナル抗体の調製

本実施例におけるモノクローナル抗体の作製は、単クローン抗体実験操作入門 (安東民衛ら著作、講談社発行 1991) 等に記載されるような一般的方法に従って調製した。免疫原としての 40-kDa OMP は、実施例 1 で調製した r40-kDa OMP を

用いた。被免疫動物は、実施例 2 で作製したヒト免疫グロブリンを産生するヒト抗体産生マウスを用いた。

#### 【0033】

ヒト抗体産生マウスに、実施例 1 で作製した r40-kDa OMP を RIBI アジュバンド (Corixa 社製) と混合し、 $20\mu\text{g}$  の r40-kDa OMP を腹腔内投与することにより初回免疫した。r40-kDa OMP と RIBI アジュバンド混液を初回免疫から 1 週間～2 週間毎に腹腔内投与により 4 回追加免疫した。さらに、以下に述べる脾臓細胞の取得 3 日前に r40-kDa OMP を尾静脈内注射により追加免疫した。

#### 【0034】

免疫されたマウスから脾臓を外科的に取得し、回収した脾臓細胞をマウスミエローマ SP2/0 (ATCC No.: CRL1581) と 5:1 で混合し、融合剤としてポリエチレングリコール 1500 (Boehringer Mannheim 社製) を用いて細胞融合させることにより多数のハイブリドーマを作製した。ハイブリドーマの選択は、10% のウシ胎児血清 (Fetal Calf Serum、FCS) とヒポキサンチン (H)、アミノプテリン (A)、チミジン (T) を含有する HAT 含有 DMEM 培地 (Gibco BRL 社製) 中で培養することにより行った。さらに、HT 含有 DMEM 培地を用いて限界希釈法によりシングルクローンにした。培養は、96-well マイクロタイタープレート (ベクトンディッキンソン社製) 中で行った。抗 r40-kDa OMP ヒトモノクローナル抗体を産生するハイブリドーマクローンの選択 (スクリーニング) 及び各々のハイブリドーマが産生するヒトモノクローナル抗体の特徴付けは、後述する酵素標識免疫吸着アッセイ (ELISA) 及び蛍光活性化セルソーター (FACS) により測定することにより行った。

#### 【0035】

ヒトモノクローナル抗体産生ハイブリドーマの ELISA によるスクリーニングは、以下に述べる Enzyme linked immunosorbent Assay (ELISA) および Fluorescence Activated Cell Sorting (FACS) により、ヒト免疫グロブリン  $\gamma$  鎖 (hIg $\gamma$ ) 及びヒト免疫グロブリン  $\kappa$  鎖を有し、かつ、r40-kDa OMP に特異的な反応性を有するヒトモノクローナル抗体を産生するハイブリドーマを得た。なお、本実施例を含め以下のいずれの実施例中、並びに実施例における試験結果として示した



表又は図中においては、各々の本発明のヒト抗40-kDa OMPモノクローナル抗体を産生するハイブリドーマクローンは記号を用いて命名した。以下のハイブリドーマクローンはシングルクローンを表わす: h13-17, 5-89-2, a44-1又は1-85-16。それらの内3つのハイブリドーマクローンh13-17, 5-89-2及びa44-1を、独立行政法人産業技術総合研究所 特許生物寄託センター（茨城県つくば市東1丁目1番地1 中央第6）にブダペスト条約の規定下で国際寄託した。ハイブリドーマクローンh13-17, 5-89-2及びa44-1は各々受託番号FERM BP-8325、FERM BP-8323及びBP-8324である（2003年3月11日付）。

### 【0036】

（実施例4）ヒト免疫グロブリン $\gamma$ 鎖を有するモノクローナル抗体の検出

実施例1で作製したr40-kDa OMP（ $1\mu\text{g/ml}$   $50\text{mMNa}_2\text{HCO}_3$ ）を、ELISA用96穴マイクロプレート（Maxisorp、Nunc社製）の各ウェルに $50\mu\text{l}$ 加え、室温で30分インキュベートし、r40-kDa OMPをマイクロプレートに吸着させた。次いで、上清を捨て、各ウェルにブロッキング試薬（SuperBlock<sup>TM</sup> Blocking Buffer, PIERCE社製）を加え室温で10分間インキュベートし、r40-kDa OMPが結合していない部位をブロックした。このようにして、各ウェルをr40-kDa OMPでコーティングしたマイクロプレートを作製した。また、*P.gingivalis* 381株を嫌氣的に $5\mu\text{g/mL}$ ヘミン（Sigma社製）、 $0.5\mu\text{g/mL}$ ビタミンK、0.5% yeast extract（Difco社製）添加Trypticase soy broth（BBL社製）中にて $37^\circ\text{C}$ で培養し、中期対数期まで*P.gingivalis*を増殖させた。その後、遠心分離（ $10,000 \times g$ , 10分,  $4^\circ\text{C}$ ）によって同細菌の細胞を回収し、 $60^\circ\text{C}$ 、30分で熱処理した。次にPBS中に再懸濁させ、超音波ホモジナイザー（Branson Sonifier 250）を使用し、氷上で15分音波処理をした。この超音波処理物を遠心分離（ $100,000 \times g$ , 30分,  $4^\circ\text{C}$ ）し、上清を濾過（ $0.22\mu\text{m}$ ）した。超音波処理物の濃度は280 nmの吸光度を測定し、 $1\text{mg/ml}$ を1.0 Optimal density (O.D.)として算出した。*P.gingivalis*超音波処理物（ $50\mu\text{g/ml}$   $50\text{mMNa}_2\text{HCO}_3$ ,  $50\mu\text{l}$ /ウェル）を、ELISA用96穴マイクロプレート（Maxisorp、Nunc社製）の各ウェルに加え、室温で30分インキュベートし、*P.gingivalis*超音波処理物をマイクロプレートに吸着させた。次いで、上清を捨て、各ウェルにブロッキング試薬（SuperBlock<sup>TM</sup> Blocking Buffer, PIERCE社製）を加え室温

で10分間インキュベートした。各ウェルを、0.1%Tween20含有リン酸緩衝液 (PB S-T) で2回洗浄した。r40-kDa OMP あるいはP.gingivalis超音波処理物をコーティングしたマイクロプレートの各ウェルに、各々のハイブリドーマの培養上清 50  $\mu$ l を加え、室温下で30分反応させた後、各ウェルを、PBS-Tで2回洗浄した。次いで、過酸化酵素で標識されたヤギ抗ヒトIgG F(ab')<sub>2</sub>抗体 (Biosource International社製) を10%ブロックエース (大日本製薬株式会社製) 含有PBS-Tで2,000倍に希釈した溶液50  $\mu$ l を、各ウェルに加え、室温下30分インキュベートした。マイクロプレートを、PBS-Tで3回洗浄後、発色基質液 (TMB、DAKO社製) を各ウェルに100  $\mu$ l 加え、室温下で20分間インキュベートした。各ウェルに2M硫酸50  $\mu$ l を加え反応を止めた。波長450nm (参照波長570nm) での吸光度をマイクロプレートリーダー (MTP-300, コロナ電気社製) で測定した。その結果、300クローン以上の抗r40-kDa OMP抗体が取得できた。その一部を図1に示す。

#### 【0037】

(実施例5) ヒト免疫グロブリン軽鎖  $\kappa$  (IgL  $\kappa$ ) を有するモノクローナル抗体の検出

実施例1で作製したr40-kDa OMP (1  $\mu$ g/ml 50mMNa<sub>2</sub>HCO<sub>3</sub>) を、ELISA用96穴マイクロプレート (Maxisorp、Nunc社製) の各ウェルに50  $\mu$ l 加え、室温で30分インキュベートし、r40-kDa OMPをマイクロプレートに吸着させた。次いで、上清を捨て各ウェルにブロッキング試薬 (SuperBlock<sup>TM</sup> Blocking Buffer, PIERCE社製) を加え室温で10分間インキュベートした。各ウェルを、PBS-Tで2回洗浄した。r40-kDa OMPをコーティングしたマイクロプレートの各ウェルに、各々のハイブリドーマの培養上清50  $\mu$ l を加え30分反応させた後、各ウェルをPBS-Tで2回洗浄した。次いで各ウェルに過酸化酵素で標識したヤギ抗ヒトIg  $\kappa$  抗体 (2,000倍希釈、Biosource International社製) を50  $\mu$ l 加え、室温下で30分間インキュベートした。PBS-Tで3回洗浄後、基質緩衝液 (TMB、DAKO社製) を各ウェルに100  $\mu$ l 加え、室温下で20分間インキュベートした。次いで、2M硫酸50  $\mu$ l を各ウェルに加えて、反応を止めた。波長450nm (参照波長570nm) での吸光度をマイクロプレートリーダー (MTP-300, コロナ電気社製) で測定した。

#### 【0038】

## (実施例 6) 各モノクローナル抗体のサブクラス同定

実施例 1 で作製した r40-kDa OMP ( $1\mu\text{g/ml}$   $50\text{mMNa}_2\text{HCO}_3$ ) を ELISA 用 96 穴マイクロプレート (Maxisorp、Nunc 社製) の各ウェルに  $50\mu\text{l}$  加え、室温で 30 分インキュベートし r40-kDa OMP をマイクロプレートに吸着させた。次いで、上清を捨て各ウェルにブロッキング試薬 (SuperBlock<sup>TM</sup> Blocking Buffer, PIERCE 社製) を加え室温で 10 分間インキュベートした。各ウェルを、PBS-T で 2 回洗浄した。r40-kDa OMP をコーティングしたマイクロプレートの各ウェルに、各々のハイブリドーマの培養上清  $50\mu\text{l}$  を加え 30 分反応させた後、各ウェルを PBS-T で 2 回洗浄した。次いで、各ウェルにそれぞれ過酸化酵素で標識した ヒツジ抗ヒト IgG1 抗体、ヒツジ抗ヒト IgG2 抗体、ヒツジ抗ヒト IgG3 抗体又はヒツジ抗ヒト IgG4 抗体 (各 2,000 倍希釈、The Binding Site 社製) を  $50\mu\text{l}$  加え、室温下で 30 分間インキュベートした。PBS-T で 3 回洗浄後、基質緩衝液 (TMB、DAKO 社製) を各ウェルに  $100\mu\text{l}$  加え、室温下で 20 分間インキュベートした。次いで 2M 硫酸  $50\mu\text{l}$  を各ウェルに加え反応を止めた。波長 450nm (参照波長 570nm) での吸光度をマイクロプレートリーダー (MTP-300, コロナ電気社製) で測定した。

## 【0039】

## (実施例 7) 各抗体の調製

抗 r40-kDa OMP 抗体を含む培養上清の調製は以下の方法にて行った。抗 r40-kDa OMP 抗体産生ハイブリドーマをウシインシュリン ( $5\mu\text{g/ml}$ 、Gibco BRL 社製)、ヒトトランスフェリン ( $5\mu\text{g/ml}$ 、Gibco BRL 社製)、エタノールアミン (0.01mM、シグマ社製)、亜セレン酸ナトリウム ( $2.5 \times 10^{-5}\text{mM}$ 、シグマ社製) 含有 eRDF 培地 (極東製薬社製) に馴化した。スピナーフラスコにて培養し、ハイブリドーマの生細胞率が 90% になった時点で培養上清を回収した。回収した上清は、 $10\mu\text{m}$  と  $0.2\mu\text{m}$  のフィルター (ゲルマンサイエンス社製) に供し、ハイブリドーマ等の雑排物を除去した。

## 【0040】

上記培養上清からの抗 r40-kDa OMP 抗体の精製は以下の方法で行った。抗 r40-kDa OMP 抗体を含む培養上清を Hyper D Protein A カラム (日本ガイシ社製) を用い、付属の説明書に従い吸着緩衝液として PBS(-)、溶出緩衝液として 0.1 M クエ

ン酸ナトリウム緩衝液 (pH 3.5) を用いてアフィニティー精製した。溶出画分は 1 M Tris-HCl (pH 8.0) を添加して pH 7.2 付近に調整した。調製された抗体溶液は、透析膜 (分子量 10000 カット、Spectrum Laboratories 社製) を用いて PBS (-) に置換し、孔径  $0.22\mu\text{m}$  のメンブランフィルター MILLEX-GV (MILLIPORE 製) でろ過滅菌し、精製抗 r40-kDa OMP 抗体を得た。精製抗体の濃度は 280 nm の吸光度を測定し、1 mg/ml を 1.45 O.D. として算出した。

#### 【0041】

##### (実施例 8) アイソタイプコントロール抗体の調製

同様の方法にてヒト抗体産生マウスに DNP-KLH を免疫後、その脾臓細胞をマウスミエローマ SP2/0 細胞融合させることにより多数のハイブリドーマを作製し、各々の抗ヒト IgG1, IgG2, IgG4 抗体を調製した。

#### 【0042】

##### (実施例 9) 抗 r40-kDa OMP 抗体による *P. gingivalis* の共凝集阻害

*P. gingivalis* の共凝集阻害試験は、Ellen R.P. らの方法 (Infect. Immun. 1989; 57:1618-1620) を改変し実施した。*P. gingivalis* 381 ((1) 〒271-8587 千葉県松戸市栄町西 2-8 70-1 日本大学松戸歯学部口腔生化学講座 安孫子宜光教授、または (2) 〒951-8514 新潟市学校町通 2 番町 5274 番地 新潟大学大学院 医歯学総合研究科 摂食環境制御学講座 歯周診断・再建学分野 吉江弘正教授から分譲可能) の vesicles (0.7 ng/mL) を Hiratsuka らの方法 (Arch. Oral Biol. 1982; 37:717-724) に従い調製し、各々の抗体と 37℃、30 分間反応させた。また、*Actinomyces viscosus* (*A. viscosus*, ATCC19246) を嫌氣的に 5 mg/mL yeast extract (BBL 社製) 添加 37 mg/mL Brain heart infusion (BBL 社製) 中、37℃ で培養し、PBS で吸光度が 1.5 (波長 500 nm) になるよう調製した。調製された *A. viscosus* 50  $\mu\text{L}$  を等量の PBS で懸濁し、この溶液に各抗体と反応させた *P. gingivalis* 381 の vesicles 50  $\mu\text{L}$  を添加し、フロキュレーションスライド上で 37℃、10 分間反応させた。反応後、肉眼あるいは光学顕微鏡下で凝集活性を評価した。阻害活性の基準 (スコア 0-4) は Cisar.J.O. らの方法に従った (Infect. Immun., 1979 Vol 33:467)。その結果、13 個の抗 r40-kDa OMP 抗体が *P. gingivalis* 381 の vesicles と *A. viscosus* の共凝集阻害活性を示した。活性のある抗体

の中で共凝集阻害活性が強いh13-17, 5-89-2, a44-1および1-85-16を選抜した（表1）。以下の実験はこれら4つの抗体を用い実施した。

【0043】

【表1】

各抗40kDa-OMP抗体による*P. gingivalis*の共凝集阻害活性

クローン	共凝集阻害活性	サブクラス
a44-1	1	IgG1 (κ)
h13-17	1	IgG1 (κ)
1-85-16	1	IgG1 (κ)
5-89-2	2	IgG1 (κ)

抗体濃度: a44-1 (193μg/mL), h13-17 (175μg/mL), 1-86-16 (161μg/mL), 5-89-2 (32μg/mL)

共凝集阻害能の数値は低いほど活性が強い

【0044】

(実施例10) 抗r40-kDa OMP抗体によるヒト好中球貪食の賦活化

貪食試験はPerticarari S.らの方法 (Cytometry 1991; 12:687-693) を改変し実施した。*P. gingivalis* 381株を嫌氣的に5μg/mLヘミン、0.5μg/mLビタミンK、0.5% yeast extract (Difco社製) 添加Trypticase soy broth (BBL社製) 中にて37℃で培養し、中期対数期まで*P. gingivalis* を増殖させた。その後、遠心分離 (10,000 x g, 10分, 4℃) によって同細菌の細胞を回収し、60℃、30分で熱処理しPBSで2回洗浄後 $2 \times 10^8$  cfu/mLに調製した。*P. gingivalis* 381懸濁液1 mLに、0.1M sodium carbonate buffer (pH9.6) で1 mg/mLに調製されたFITC (Molecular Probes社製) を1 mL添加し、37℃、30分培養し、PBSで3回洗浄後、FITC標識*P. gingivalis* 381を $2 \times 10^8$  cfu/mLに調製した。FITC標識*P. gingivalis* 381へ

の抗40-kDa OMP抗体の結合は、標識されていない*P. gingivalis* 381と同程度であった。ヒト好中球の分離法については、ヘパリンコート真空採血管によりヒト末梢静脈血を採取後、Histopaque 1077と1119 (Sigma社製)を用いた2重密度勾配遠心法にて行った。更に、氷冷した溶血液 (10mM Tris, 10mM KCl, 1mM MgCl<sub>2</sub>, pH7.4) にて残存赤血球を低張溶血し、PBSにて浸透圧を回復後、洗浄し、2x10<sup>6</sup> /mLに調製した。調製された好中球は直ちに次の貪食試験に供した。

#### 【0045】

2x10<sup>7</sup>cfu/mLのFITC標識*P. gingivalis* 381を各々の抗40-kDa OMP抗体あるいはコントロール抗体を (1μg/mL, 5μL) を加え、37℃、30分間反応させた。PBSで2回洗浄後、再懸濁した。ヒト好中球とFITC標識*P. gingivalis* を1:20の割合になるよう混合し、4℃あるいは37℃で30分間培養した。貪食反応後10,000個の好中球をFACSscan (Becton Dickinson社製)で取り込み、FITCの蛍光強度を測定することにより、貪食能を評価した。貪食した好中球の割合 (貪食率) は以下の計算式により求めた。貪食率 (%) = (37℃でのFITC陽性好中球の割合 (%)) - (4℃でのFITC陽性好中球の割合 (%)) その結果、何れの抗体もコントロール抗体と比較した場合、好中球の貪食活性を増強する効果があることが観察された (表2)。さらに、報告されているマウス40-kDa OMP抗体 (Pg-ompA3: Sato S. et al., Gen. Pharmacol, 1997 Vol 28:675) とヒト40-kDa OMP抗体 (h13-17, 5-89-2, a44-1) と活性を同じ評価系にて比較した。その結果、マウス抗体Pg-ompA3はヒト好中球の貪食能を増強する活性は非常に弱く、ヒト抗体が優れていることが示された (図2)。

#### 【0046】

##### 【表2】

各抗40kDa-OMP抗体によるヒトpolymorphonuclear neutrophilsの*P. gingivalis* 貪食賦活化活性

クローン	PMN食食率
5-89-2	76.2% *
1-85-16	83.0% *
a44-1	78.6% *
h13-17	81.3% *
Control IgG1	49.8%

\* : PMN (Polymorphonuclear neutrophils) 食食率  
がコントロールと比べ有意に高い (  $P < 0.05$  )

#### 【0047】

(実施例 11) r40-kDa OMP抗体と患者血清のP. gingivalisへの結合活性比較  
4つのr40-kDa OMP抗体と慢性歯周病患者血清のP. gingivalisへの結合の強さを実施例 4 と同法のELISAにて比較した。r40-kDa OMP あるいはP. gingivalis超音波処理物をコーティングしたマイクロプレートの各ウェルに、各々の抗体 (150ng/mL) あるいは適宜希釈した患者血清由来IgG抗体 (Kobayashi, T. et.al., Infect. Immun., 2001 Vol 69:2935) を50 $\mu$ l加え反応させた。洗浄後、過酸化酵素標識ヤギ抗ヒトIgG F(ab')<sub>2</sub>抗体 (免疫生物研究所社製) と発色基質液 (TMB) で結合抗体を検出した。その結果、r40-kDa OMPと同等に結合する濃度で比較すると、全ての抗体が患者血清より、P. gingivalisに強い結合活性を有する抗体であることが判明した (図3)。

#### 【0048】

(実施例 12) 各抗r40-kDa OMP抗体のヒト血液細胞交叉反応性

各モノクローナル抗体のヒト血液細胞への交叉反応性をFACS解析で調べた。1mLヘパリン (Novo社製) 入りヒト末梢血10mLを10mLのPBS(-)で2倍に希釈し、20mLのFicoll-Paque PLUS液 (Amersham Pharmacia Biotech社製) 上に重層した。1500

r.p.m. で30分間遠心後単核球画分を回収し、PBS(-)で2回洗浄した。調製された細胞は1%ラット血清入り、0.1%NaN<sub>3</sub>、2%FCS含有PBSのStaining Buffer (SB) に $2 \times 10^6$ /mlの濃度で浮遊させた。細胞浮遊液 (100  $\mu$ l/ウェル) を96-well 丸底プレート (ベクトンディッキンソン社製) に分注した。h13-17, 5-89-2, a44-1 又は1-85-16の各々の抗体を5  $\mu$ g/mLの濃度で氷温下30分間インキュベートした。SBで2回洗浄した後、300  $\mu$ lのFACS緩衝液に懸濁し、FACS (FACScan、ベクトンディッキンソン社製) で各抗体の反応性を調べた。その結果、いずれの抗体もヒト末梢血細胞に結合しなかった。このことから全ての抗体がヒトに投与したときに副作用の生じにくい抗体であることが予想された。

#### 【0049】

(実施例13) 抗r40-kDa OMP抗体のP.gingivalisに対する結合活性

各抗体のP.gingivalisに対する結合を表面プラズモン共鳴法 (BIAcore、BIAcore社製) を用いて評価した。センサーチップ (CM5) を実験プロトコルに従い、アミンカップリング法で固定化した (固定化量: cIgG1=9097RU, a44-1=7355RU, h13-17=7473RU, 5-89-2=7595RU, 1-85-16=7870RU)。60℃で30分処理し死滅させたP.gingivalis菌体を10mM Tris-HCl/150mM NaCl, pH8.0の緩衝液にてO.D. 50 nm=0.4の濃度に調製し、流速10  $\mu$ L/minで供給した。その結果5-89-2は他の抗体と比べた場合解離速度が遅く、P.gingivalisに強く結合する抗体であることが分かった (図4)。歯周病の治療の際予想される唾液による抗体排除作用を考慮した場合、5-89-2のような解離が遅い抗体が良い。このことから5-89-2はヒトに投与したときに高い治療効果を示す抗体であることが予想された。

#### 【0050】

(実施例14) 抗r40-kDa OMP抗体のP.gingivalisに対するヘミン結合阻害活性

40-kDa OMPに対するヘミンの結合を抗r40-kDa OMP抗体が阻害するか表面プラズモン共鳴法 (BIAcore、BIAcore社製) を用いて評価した。アミンカップリング法でr40-kDa OMPを固定化した (RU=3500)。図5は、10mM Tris-HCl/150mM NaCl, pH 8.0 (T-B)の緩衝液にて20  $\mu$ g/mLに調製した各抗体を流速20  $\mu$ L/mで供給し、さらに、T-Bの緩衝液にて調製した5  $\mu$ g/mLのヘミン (シグマ社製) を供給した結果である。ヘミンの供給が開始された時間を0秒としたセンサグラムを示



している。h13-17をr40-kDa OMPに前結合させた場合、ヘミンの結合がcIgGに比べ優位に低下していることが観察された。一方、他の3クローンは、前結合させてもコントロールと同程度のr40-kDa OMPとヘミンの結合が観察された。これらの結果より、h13-17は、ヘミンのr40-kDa OMPに対する結合を阻害することが示唆された。さらに、図6は、h13-17とヘミンを同時に反応させh13-17がヘミンとr40-kDa OMPの結合を阻害するかを調べたものである。h13-17とヘミンをT-B緩衝液にてそれぞれ20  $\mu$ g/mLと5  $\mu$ g/mLに調製し、r40-kDa OMP固定化センサーチップに流速20  $\mu$ L/mで供給した。対象抗体としてh13-17と解離速度がほぼ同じ（図4参照）であるa44-1抗体を用いた。その結果、アナライト拡散後の平衡期に近い時点（380秒）でのシグナルを見ると、h13-17存在下ではヘミンとr40-kDa OMPの結合シグナルは255RUで、h13-17単独のシグナル（252RU）とほぼ同じである。そのシグナルの差（255RU-252RU=3RU）は、この時点でのコントロールIgG1+ヘミンのシグナル（30RU）より明らかに低く、ヘミンはr40-kDa OMPと結合していない。一方、対象のa44-1の380秒時のシグナルはa44-1のシグナルとコントロールIgG1+ヘミンのシグナルの総和が180RU（148RU+32RU）で、a44-1+ヘミンのシグナルは170RUと抗体とヘミンが競合しない時の理論値（180RU）に近い値を示した。これらの結果より、h13-17はヘミンとOMP40の結合を強く阻害する抗体であることが示された。

#### 【0051】

##### 【発明の効果】

実施例に示すように、本発明の40-kDa OMPと結合する抗体はP.gingivalisの凝集を阻害し、また白血球の貪食能を促進する。このことより、本発明の抗体またはその機能的断片が歯周病の治療、診断に有効に用いることが可能である。

#### 【0052】

##### 【配列表】

#### SEQUENCE LISTING

<110> KIRIN BEER KABUSIKIKAI SHA

<110> NIHON UNIVERSITY

<120> A drug for treating periodontitis

<130> P03-0137

<140>

<141>

<160> 2

<170> PatentIn Ver. 2.1

<210> 1

<211> 2008

<212> DNA

<213> Porphyromonas gingivalis

<400> 1

gaattccaac cgtggaaagg ggagatagag cggcgcaaca acggatcgat cattgcgctc 60  
gaaagcggaa cggcctatgc ctatgccctg aataatctcc aaagccgtgg acgcttcttc 120  
atctctccgc aggaggaggt ctatgccggt caggctcgtgg gcgagcacac gaaggagggc 180  
gatctctgcg tcaacgtctg caagagcaaa aagcttacca atatgcgtgc ttccggtagc 240  
gatgataagg tgtcactggc tccaccggtg gtattcagcc tcgaagatgc tttggagtat 300  
atcaagtatg acgagtatgt ggaggtgacg ccgaaaagca tgcgcatgcg taaaattatc 360  
ctcgacgaga cagaacgtaa acgacaagga cgataacaga ggcaaagtat ttgcagattt 420  
catctatcta acgtattttg gtgcccgaat tacggaaaat caaacaaaat gtttcactaa 480  
caaaaaagat aaacgaacat gaaaagatta ttactctctg ctgctatcct aagtagtatg 540  
gctttgttta atgtcaatgc acaagagttg aaaacctctg ctgacatgaa aggttctttt 600

aagaagaatg tggatttga ggtatttact gccgaatggt gcggttactg tccaggtggt 660  
aaagagcgca ttgcaaaagc aattgaaatg ttggatgatg aatataagga gcgtgttttt 720  
cagacatttg ttcattataa tgatgggatc tcaaaaaaat ggcctcgtgt tggccaactt 780  
ttcattgcat tggatcaaac attgggcatt ccgggttttc cgactttttc agtttgccgt 840  
atggagaaaa aaggtgaaaa tctttcaata ggtgctccaa tagcaattaa aaataagatt 900  
atgaaagggt ttggtgatgg tacagcccct gcagaggtaa accttaaatt gaccaaagg 960  
gcaacaccgg aagatgtatg tacagctaca tttactggta aagtcgatgc agacctcata 1020  
gggaaacctc ttatgttgac tgcatatgta ttgaaaaaca atatgaagcc tattaatccg 1080  
caaatggag ctggggatgg atatctccac caacatactg tgtaaatgat tctctccaca 1140  
gatgtaaaag gagacgtttt aaatattgca gccgatggaa gttttaccat caagaaagaa 1200  
tttaagttgg atggctttga aataaaagat acagatgttc ttgctttcgt acaccatcca 1260  
atgtccaatg cggaaaacca ttctattatc aatgccgggc aagaaagcct tgataaagca 1320  
gagcctacag ctacagaaca aattgttgct acccctctg tcaaagcata tgttcagaat 1380  
ggcaaaattg ttgtagagga agagtattcc aagatggaag tattcaatgc aactggtcaa 1440  
cttgtcaaaa atgaatccct tgtccccggt gtctatgttg tccgtataac ggcaaacggt 1500  
gtaatgcatt tccttaaagt cttagttcct tgatttattg agctaagatt taaacgaaaa 1560  
ctgcgccttc ttaatgtttc ataagaaggc gcagtttcct tttttcctca ttccattctc 1620  
cgggtggtcg tcgaagggga ctgcctgtca tctttcaaac gaggaatât agtccccctc 1680  
accaacacg atgtccacaa atccatgttc atagcctatt tgagaccttt gaaaaaagag 1740  
aaggtttctt atatctatta tctataaagg cactaaaaat cagtcgattg acaataaaat 1800  
ctccaagaaa ataccatgcg acagactcac tatatagatg cggicaatgg tctgatatat 1860  
cgaggctgtt gtggatggag gatagtacac atagttttgc acctgaaaca aacgttcata 1920  
ctaaactaaa aacaaaagca ttatgactcc tatectgaac accgttttcc ccgagttcaa 1980  
actcaatgcc tatcacaatg gcgaattc 2008

&lt;210&gt; 2

&lt;211&gt; 344

&lt;212&gt; PRT

<213> Porphyromonas gingivalis

<220>

<221> SIGNAL

<222> (1)..(22)

<400> 2

Met Lys Arg Leu Leu Leu Ser Ala Ala Ile Leu Ser Ser Met Ala Leu

1

5

10

15

Phe Asn Val Asn Ala Gln Glu Leu Lys Thr Ser Ala Asp Met Lys Gly

20

25

30

Ser Phe Lys Lys Asn Val Val Leu Glu Val Phe Thr Ala Glu Trp Cys

35

40

45

Gly Tyr Cys Pro Gly Gly Lys Glu Arg Ile Ala Lys Ala Ile Glu Met

50

55

60

Leu Asp Asp Glu Tyr Lys Glu Arg Val Phe Gln Thr Phe Val His Tyr

65

70

75

80

Asn Asp Gly Ile Ser Lys Lys Trp Pro Arg Val Gly Gln Leu Phe Ile

85

90

95

Ala Leu Asp Gln Thr Leu Gly Ile Pro Gly Phe Pro Thr Phe Ser Val

100

105

110

Cys Arg Met Glu Lys Lys Gly Glu Asn Leu Ser Ile Gly Ala Pro Ile

115

120

125

Ala Ile Lys Asn Lys Ile Met Lys Gly Phe Gly Asp Gly Thr Ala Pro

130

135

140

Ala Glu Val Asn Leu Lys Leu Thr Lys Gly Ala Thr Pro Glu Asp Val

145

150

155

160

Cys Thr Ala Thr Phe Thr Gly Lys Val Asp Ala Asp Leu Ile Gly Lys

165

170

175

Pro Leu Met Leu Thr Ala Tyr Val Leu Lys Asn Asn Met Lys Pro Ile

180

185

190

Asn Pro Gln Asn Gly Ala Gly Asp Gly Tyr Leu His Gln His Thr Val

195

200

205

Leu Met Ile Leu Ser Thr Asp Val Lys Gly Asp Ala Leu Asn Ile Ala

210

215

220

Ala Asp Gly Ser Phe Thr Ile Lys Lys Glu Phe Lys Leu Asp Gly Phe

225

230

235

240

Glu Ile Lys Asp Thr Asp Val Leu Ala Phe Val His His Pro Met Ser

245

250

255

Asn Ala Glu Asn His Ser Ile Ile Asn Ala Gly Gln Glu Ser Leu Asp

260

265

270

Lys Ala Glu Pro Thr Ala Thr Glu Gln Ile Val Ala Thr Pro Ser Val  
275 280 285

Lys Ala Tyr Val Gln Asn Gly Lys Ile Val Val Glu Glu Glu Tyr Ser  
290 295 300

Lys Met Glu Val Phe Asn Ala Thr Gly Gln Leu Val Lys Asn Glu Ser  
305 310 315 320

Leu Val Pro Gly Val Tyr Val Val Arg Ile Thr Ala Asn Gly Val Met  
325 330 335

His Phe Leu Lys Val Leu Val Pro  
340

【図面の簡単な説明】

【図1】 各抗40kDa-OMP抗体のr40kDa-OMP およびP.gingivalisに対する反応性を示す図である。

【図2】 各抗40kDa-OMP抗体と歯周病患者血清のP.gingivalisに対する結合活性の比較を示す図である。

【図3】 各抗40kDa-OMP抗体とP.gingivalisの反応解析結果を示す図である。

【図4】 40kDa-OMPとヘミン相互作用に各抗40kDa-OMP抗体が及ぼす影響を示す図である。

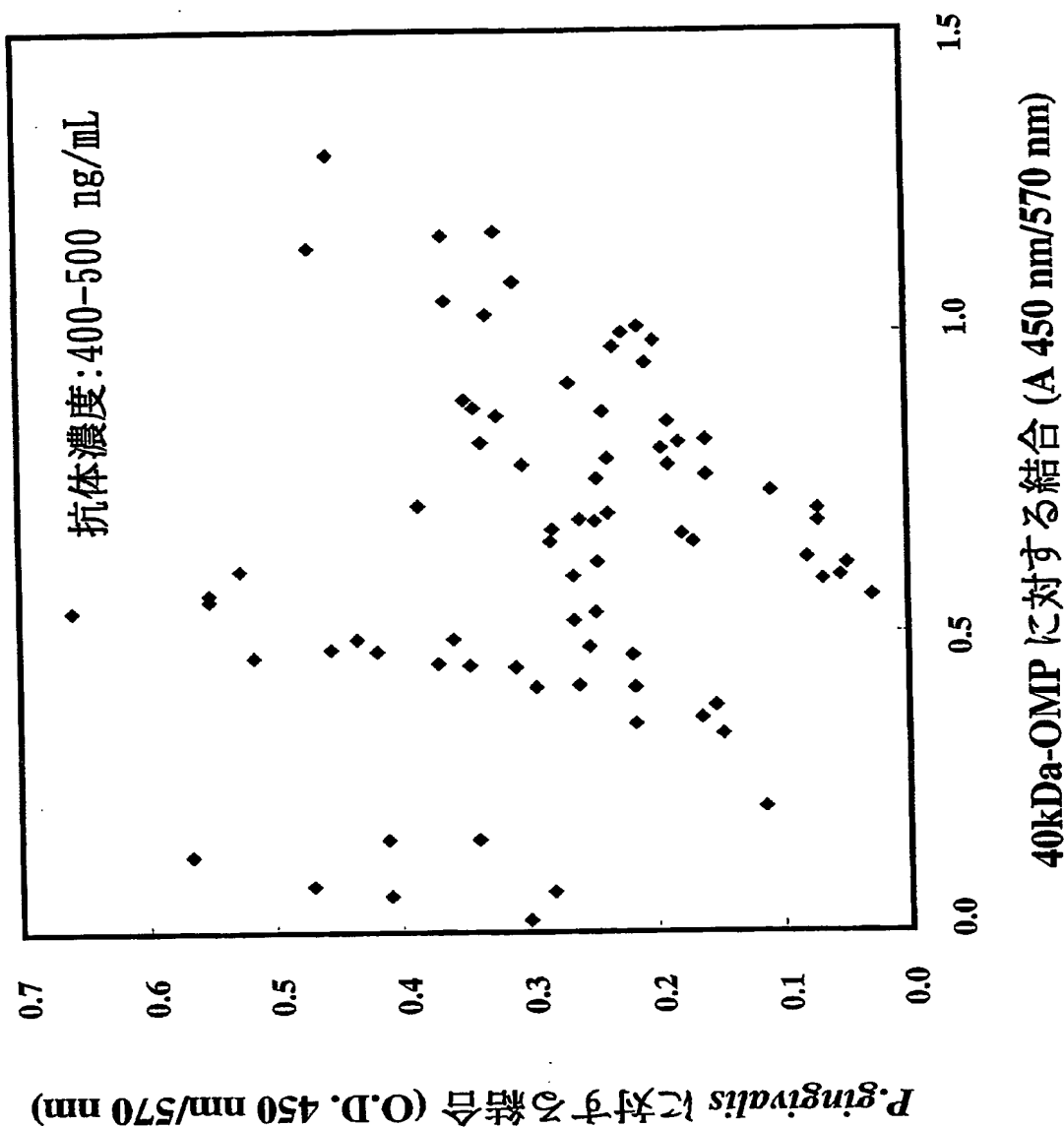
【図5】 h13-17抗体の40kDa-OMPとヘミン結合阻害活性を示す図である。

【図6】 各種P.gingivalis株への各抗40kDa-OMP抗体の反応性を示す図である。

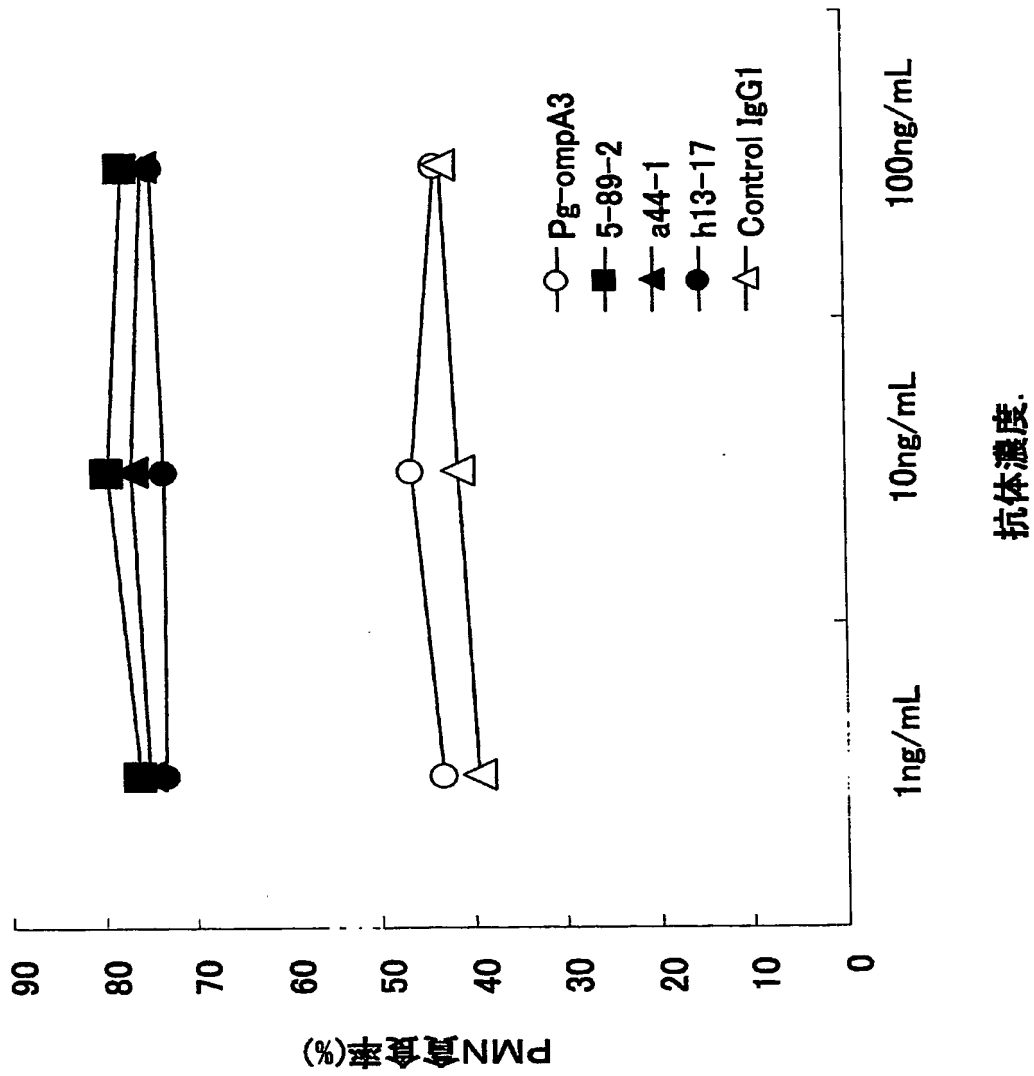
【書類名】

図面

【図 1】

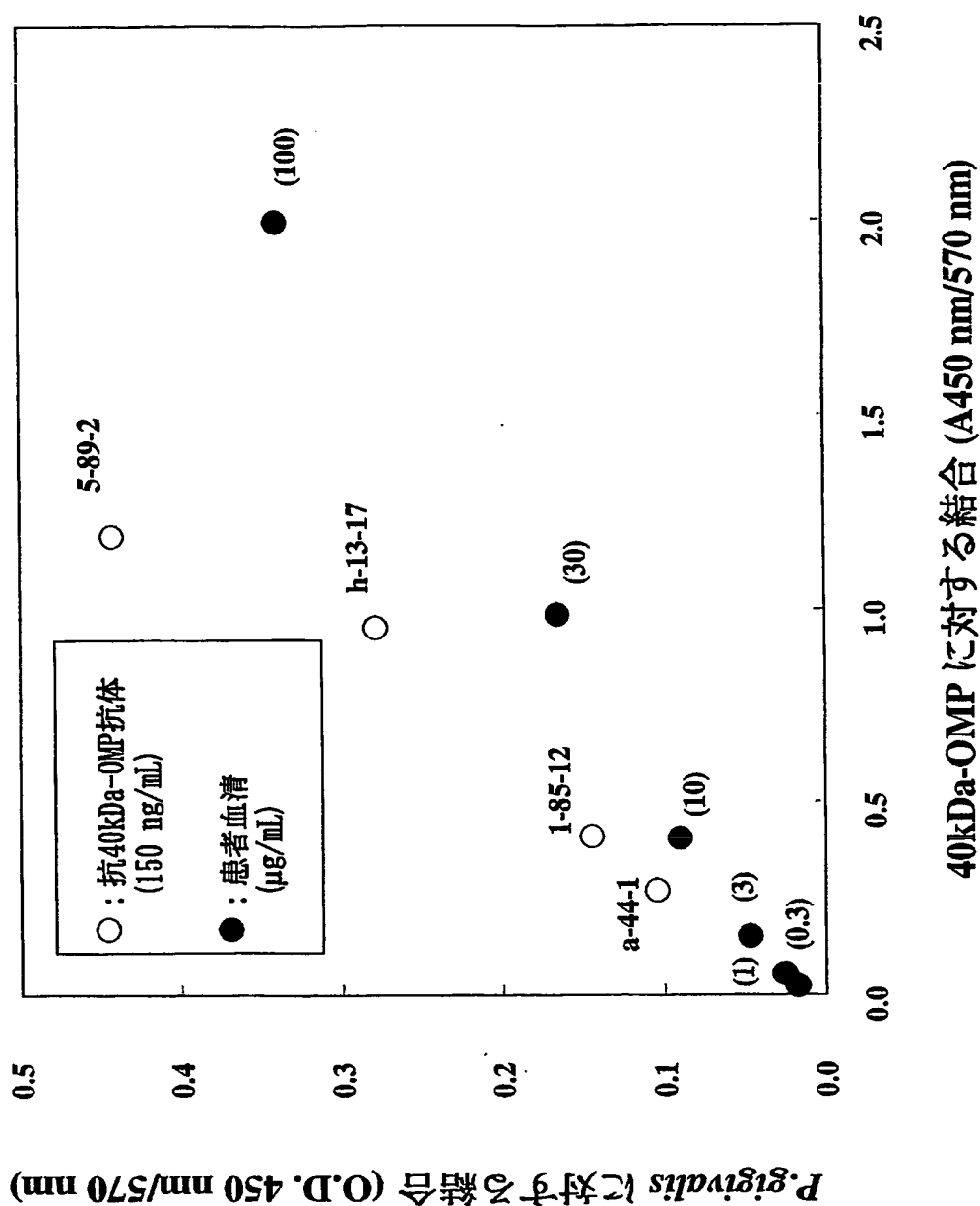


【図 2】

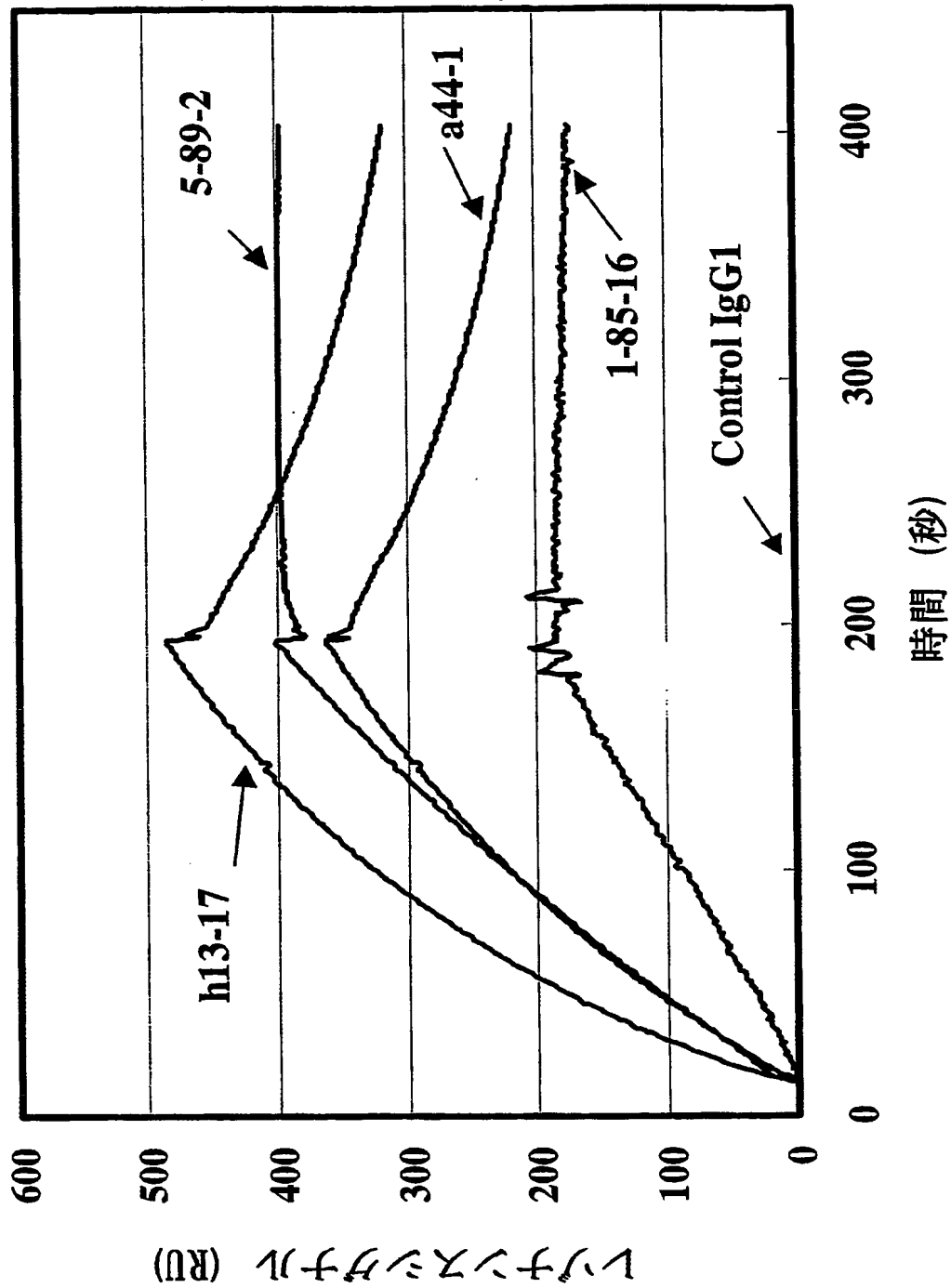




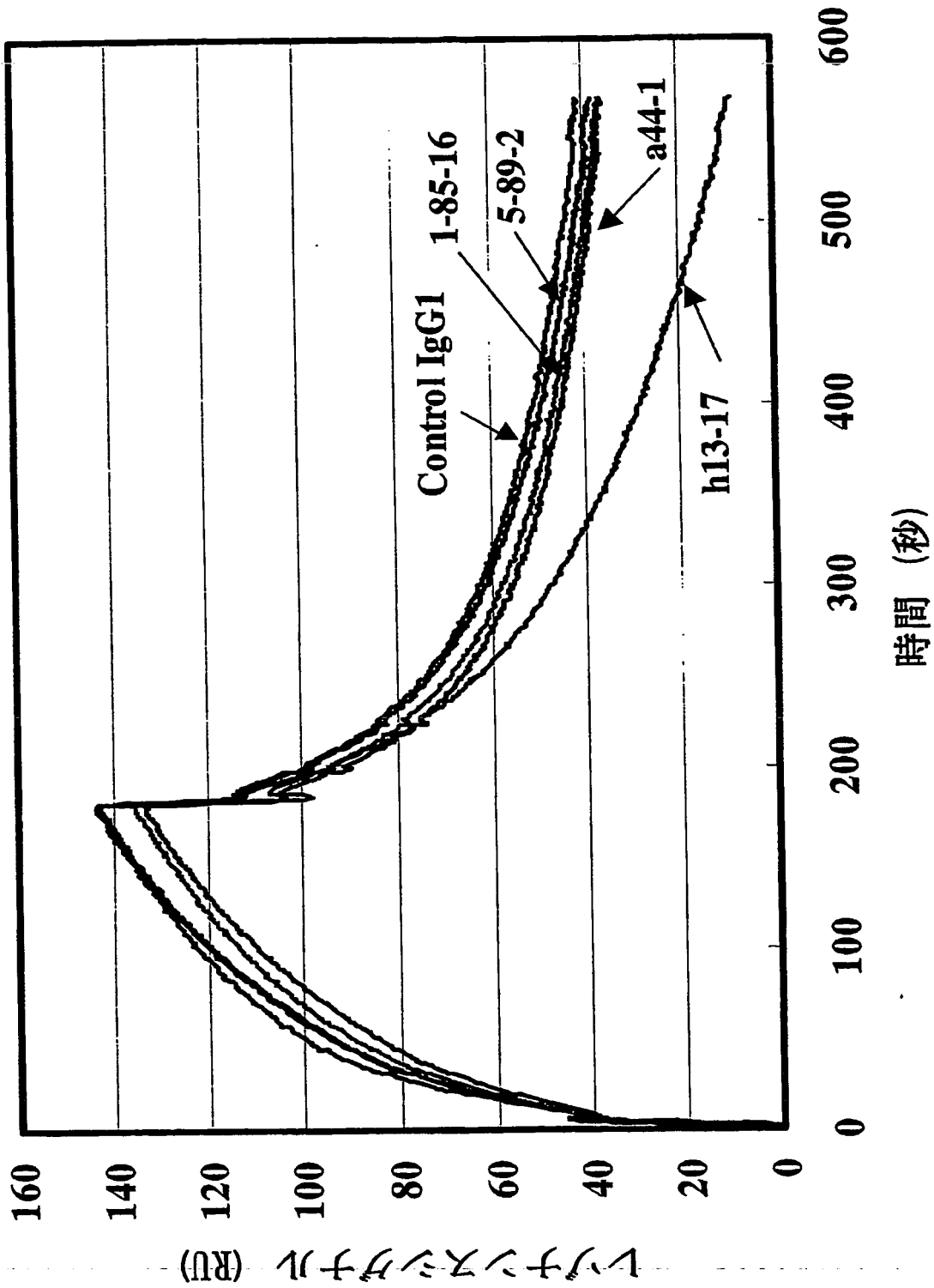
【図 3】



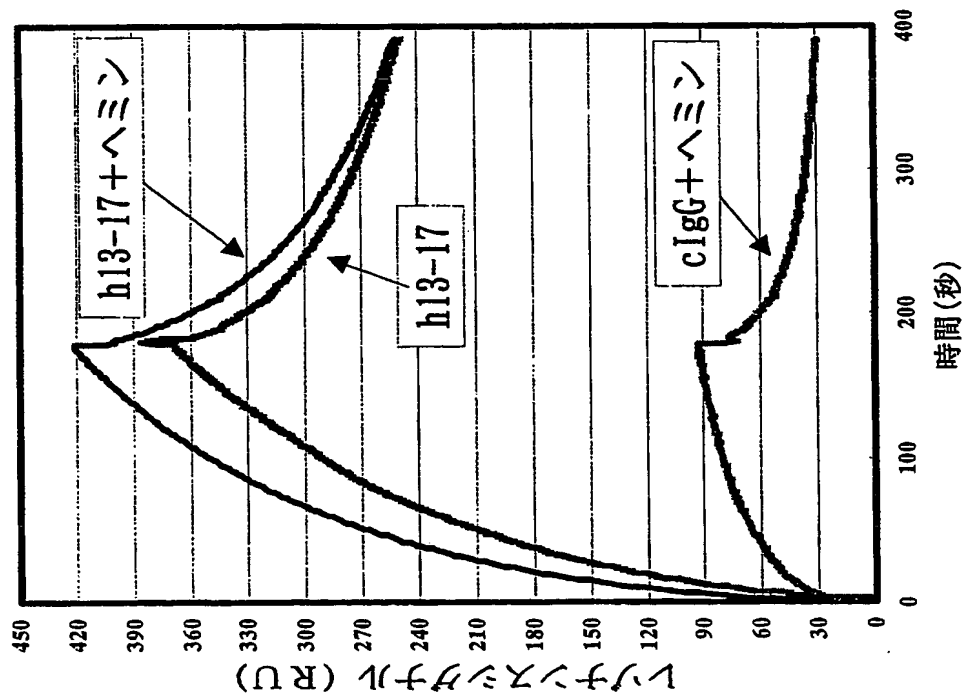
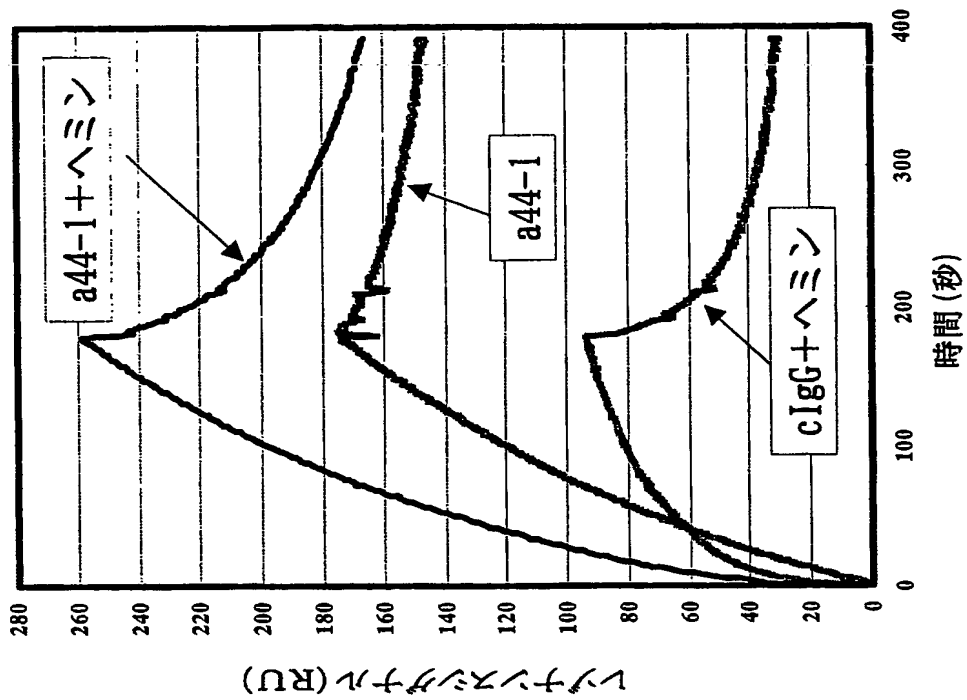
【図 4】



【図 5】



【図6】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 歯周病病原菌の凝集阻害活性と白血球による殺菌促進活性とを併せ持ち、好ましくは、ヘミンの結合を阻害する40-kDa OMPに対するモノクローナル抗体であって、さらに、副作用等の心配のないヒトモノクローナル抗体および該モノクローナル抗体を含む抗歯周病剤の提供。

【解決手段】 (1) *P. gingivalis* 共凝集阻害活性、および (2) ヒト好中球貪食賦活活性、および (3) ヘミンと40-kDa OMPとの結合阻害活性の少なくとも一つを有する、40-kDa OMPと結合する抗体またはその機能的断片。

【選択図】 なし

特願 2 0 0 3 - 0 7 2 7 1 4

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[ 0 0 0 2 5 3 5 0 3 ]

1. 変更年月日

1 9 9 5 年 6 月 1 4 日

[変更理由]

住所変更

住 所

東京都中央区新川二丁目 1 0 番 1 号

氏 名

麒麟麦酒株式会社

特願 2003-072714

出願人履歴情報

識別番号

[899000057]

1. 変更年月日

1999年 9月17日

[変更理由]

新規登録

住所

東京都千代田区九段南四丁目8番24号

氏名

学校法人日本大学